

平成 31 年 建設技術研究開発評価委員会〈議事要旨〉

日 時：平成 30 年 2 月 6 日（水）10:00～12:15

場 所：中央合同庁舎 4 号館 12 階 全省庁共用 1211 会議室

出席者：【委員長】道奥康治、【副委員長】野城智也

【委員】加藤信介、古関潤一、清水英範、田中哮義、二羽淳一郎、

山口栄輝

（五十音順、敬称省略）

議 事：・総合技術開発プロジェクトについて

・ヒアリング（中間評価【1 件】、終了時評価【2 件】、追跡調査【2 件】）

配布資料：総合技術開発プロジェクトについて

【中間評価】

○防火・避難規定等の合理化による既存建物活用に資する技術開発

【終了時評価】

○地域安心居住機能の戦略的ストックマネジメント技術の開発

○3次元地理空間情報を活用した安全・安心・快適な社会実現のための  
技術開発

【追跡調査】

○高度な国土管理のための複数の衛星測位システム（マルチGNSS）  
による高精度測位技術の開発

○中古住宅流通促進・ストック再生に向けた既存住宅等の性能評価技術  
の開発

議事要旨：平成 31 年度に 1 年前倒し終了予定の課題に関する中間評価（1 件）、平成 29 年の終了課題（2 件）に関する終了時評価、平成 26 年度の終了課題（2 件）に関する追跡調査を実施するため、外部有識者による評価委員会を開催した。

委員の主な意見は下記の通り。

**【中間評価】防火・避難規定等の合理化による既存建物活用に資する技術開発**

○市街地環境に配慮した用途規制の合理化について、既存建築物の用途変更が行われた場合においても地域と調和のとれた建築物となるように住民の合意を得ながら進めることが重要である。

○耐火規定等の合理化についても、消火設備の能力と合わせて検討されるとよい。

### **【終了時評価】 地域安心居住機能の戦略的ストックマネジメント技術の開発**

- 住環境に対する社会的なニーズなどの動向と合わせた検討を進めることが重要である。
- 社会インフラや公共機関のネットワークなどと組み合わせた検討が望まれる。

### **【終了時評価】 3次元地理空間情報を活用した安全・安心・快適な社会実現のための技術開発**

- 本研究においては、人物の移動、動線に係る検討がメインとなっているが、最終的には社会全体の3次元地図化が望まれる。
- 今後、災害情報などとリンクしたシステムとして活用されることが望まれる。

### **【追跡調査】 高度な国土管理のための複数の衛星測位システム（マルチGNSS）による高精度測位技術の開発**

- 解析ソフトウェアのダウンロード数の確認だけでなく、ユーザーの利用状況など波及効果の把握がされるとよい。
- 具体的な活用事例や従来の高精度測位技術とのコストの比較などが確認できるとよい。

### **【追跡調査】 中古住宅流通促進・ストック再生に向けた既存住宅等の性能評価技術の開発**

- 非常に貴重なデータベースを構築しているため、より広く活用できるよう整備されることが望まれる。
- 相隣環境性能の評価手法として「日照」を取り扱っているが、公共インフラや地形など災害に対する安全性も指標に入れて検討されるとよい。

以上